2019年 新年号

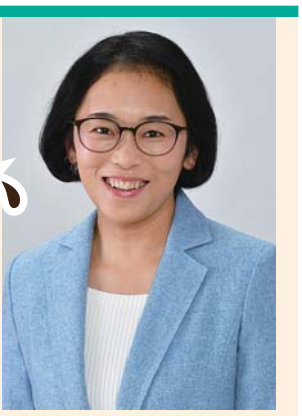
今 政治を変えるのはnetネットです

市民ネットワーク議会通信

編集・発行 市民ネットワーク
千葉市中央区中央 4-10-11
Tel&Fax 043-201-2551
http://shimin-network.jp/

2018年 千葉市議会第４回定例会 11月27日～ 12月14日

本年も生活者の声を聴いて政策に生かし、住みよいまちづくりをすすめます。



昨年暮れの市議会定例会では市議会議員松井かよ子（美浜区）が一般質問を、いわさき明子（若葉区）が議案質疑と討論を行い、生活者の声をしっかり市に届けました。

松井かよ子 の一般質問から（12月13日）

石炭火力発電所はNo！

発電所に山積された石炭（山口県）

フクダ電子アリーナ（蘇我）の海側に石炭火力発電所の計画があります。石炭火力発電所について、仙台市は独自の指導方針で「立地の抑制」を求めていますが、千葉市は事業者に対して「環境負荷の低減」の意見を述べるにとどまっています。市の姿勢をはっきり示すよう求めました。

自然教室の行き先は？

室内用キャンプファイヤー（那須甲子）

高原千葉村が今年３月で閉所となります。来年の中学２年生自然教室の候補地は、教育委員会内の会議で赤城（群馬）・那須甲子（福島）に決めたとのこと。原発事故による放射能汚染を心配する保護者の疑問に対し、丁寧に説明するよう求めました。

誰でも相談できる体制を！

あんしんケアセンターは、高齢者の総合相談窓口です。しかし現状では、例えば日本語が不自由な高齢者の場合、通訳は主に家族が担っています。付き添いがいなくても相談をあきらめずにすむような、支援体制づくりを要望しました。

このマークは、何だ？

JR 京葉線内でのこと。優先席に座っていた若い女性に向かって「なぜ席を譲らないのか」と文句を言う高齢の男性がいたそうです。男性は女性がつけていたマタニティマークを知らなかったとのこと。多世代へのさらなる広報や啓発を求めました。

ちば自主夜間中学へのサポートは？

何らかの事情で不登校の人、または中学を卒業していない人等の学びの場である夜間中学ですが、10 月から市民団体による「ちば自主夜間中学」が美浜区で始まりました。場所や教材の提供等、千葉市の積極的な支援を要望しました。

稲毛高校に国際バカロレア課程を！

市立稲毛高校（写真）の入試を廃止し、完全中高一貫校の設置を検討中です。閉鎖的な環境でグローバル・リーダーの育成を目指すのではなく、国際色豊かな学びの場として「国際バカロレア課程*」の導入を提案しました。

＊この課程の修了者には、世界各国の大学への入学資格が認められる。都立国際高校、札幌市立開成中等教育学校で導入済。

いわさき明子 の討論から（12月14日）

全ての小中学校にエアコン設置

全小中学校普通教室等への冷暖房設備の設置が決定。2020 年度完了にむけた実施設計の補正予算がつきました。

工事のスケジュールは学校によって異なるため、保護者へ丁寧な説明を行うよう求めました。

熱中症対策は冷水機と扇風機で

エアコンが使用できるまで時間がかかるため、各校に冷水機と体育館用大型扇風機の導入が決まりました。

合わせて体操服登校や、温・湿度の指針に沿って屋外活動の可否を判断するなど、学校現場でのソフト的な工夫で熱中症予防に努めるよう要望しました。

事業系ごみの削減が一歩前進

小規模でもごみを大量に出す事業者（飲食店など）は、廃棄物の減量計画書の提出や廃棄物管理責任者の届け出等が義務化されます。

定期的な立入調査でごみ減量の具体的な方策をアドバイスし、事業者のごみに対する意識改革を図るよう求めました。

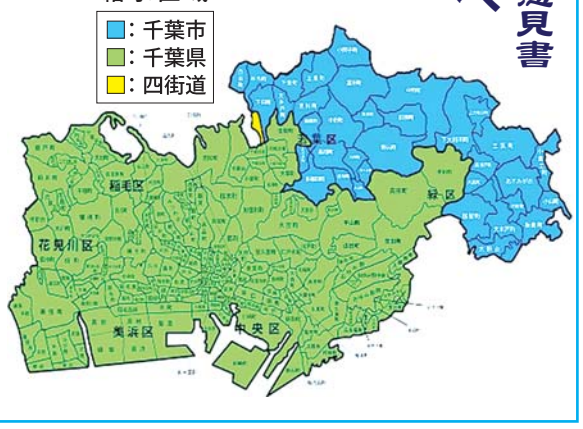
千葉市と県の水道事業統合を求める意見書 全会派の賛成で県に提出へ

千葉市民が使う上水道は、千葉県、千葉市、四街道市の３つの水道局が給水しています。

若葉区と緑区の一部に給水する千葉市の水道事業は、対象人口が５万人未満と小規模で、また市街化調整区域など人口密度の低い地域が多いため、経営効率が良いとは言えません。今後は給水人口の減少や施設の老朽化などにより、さらに厳しい経営状況が見込まれます。

経営基盤が県営水道に一元化されれば、事業の効率化と災害に強く安定した水の供給が望めることから、今回「市水道事業を千葉県へ統合する協議を開始すること」を求める意見書が、全会一致で採択されました。

蛇口からいつでも安全な水が出るのが、当たり前ではなくなりつつあります。先の国会では改正水道法が成立し、水道の民営化を検討する自治体も出ると予想されます。

水道は、暮らしと命にかかわるインフラです。あり方を検討する際は、意見交換会の開催など、市民の声を聞く機会を設けるよう求めていきます。

給水区域